



タイトル「2020年度シラバス」、フォルダ「行政政策学類」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	問題探究セミナー I		
担当教員	今西 一男		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	行:H
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位区分	必修
授業形態	演習	単位数	2
備考			
特修プログラム		ナンバリング	g3310010
教育目標との関係 (DPポイント配分)	基盤教育 基盤教育	最新の専門知識及び技術 本質を見極めるための教養と学際性 協働的な問題探究 社会の改善につなげる創造性 市民としての主体的態度	20 % 20 % 30 % 20 % 10 %
授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実験 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> ICT機器の活用		
授業概要とねらい	<p>1 テーマ 「まちづくり」の群像2020 - 縮減社会の「住まい方」 -</p> <p>2 授業概要とねらい この演習でのねらいは大きく二つあります。</p> <p>(1)テーマを通じて大学における学びの「作法」を身につける 大学における学びを平たく言えば、「読む」「書く」「聞く」「話す」そして「調べる」といったふるまいに明確な意図を持ち、基本的な約束事を守るということになるかと思えます。テーマについて触れていくなかで、そうした学びの「作法」の基本を身につけることを第一のねらいとします。</p> <p>(2)学びの「作法」を活かしてテーマについて考える 人口減少や経済規模縮小といった社会の縮減状況が加速しています。それは地域間の不均衡の問題とも言えます。しかし、均衡ある発展に解決を求めるのではなく、現在の地域の可能性を引き出すことが求められています。そうした解決の方向について、地域での「住まい方」、あるいはそうしたとりくみに関わる人に光を当てながら考えます。その際、学びの「作法」を活かして、理解を深めていくことが第二のねらいとなります。</p>		
単位認定基準	<p>この演習では二つのねらいを往復しながら、そのバランス感覚を身につけることが求められます。専門的な研究・調査への橋渡しができるよう、以下の点を考慮します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読む」...文献や資料の内容について正確に読み取るとともに、自分の見解を述べられるようにします。 ・「書く」...的確に要点を整理すること(レジュメの作成)、自分の説明を順序立てて文章にまとめること(レポートの執筆)の基本を習得します。 ・「聞く」...他者の見解を正確に聞き取るとともに、鵜呑みにせずあえて質問を発することができる建設的な反応を養います。 ・「話す」...プレゼンテーションの基本も活かし、自分の見解をわかりやすく述べるとともに、他者の問いに的確に回答する姿勢を重視します。 ・「調べる」...以上の「読む」「書く」「聞く」「話す」に結実するよう、問題設定から公表に向けた社会調査の基本的なとりくみ方に触れます。 ・テーマに対する理解...演習のテーマに対して積極的な関心を持ち、情報を自ら集め、総合して考えていくようにします。 		
授業計画	<p>後期の獲得目標は具体的に以下などを考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「縮減社会の「住まい方」という内容についてより詳しく理解するために、前期にとりくんだ学びの「作法」の活用を図ります。 ・「読む」「書く」「聞く」「話す」そして「調べる」という「作法」を、自ら実践していくようにします。 ・夏季休業期間に行うフィールドワークについて、考察とまとめのレポート執筆を行います。 ・年間の仕上げはテーマに関する個人レポートの執筆を予定しています。1年次の目標としてとりくんでください。 <p>獲得目標をふまえた各回の内容としては下記の順番を考えています。ただし、行事などもありますので、適宜、相談しながら組み立てていきます。</p> <p>第1回 テーマについて「調べる」⑧結果レポートの企画立案 全員またはグループでとりくんだフィールドワークについて、結果の考察とレポートの作成を行います。そのための企画検討を行います。</p>		

	<p>第2回 テーマについて「調べる」⑨結果レポートの構成検討 レポートの構成について検討します。よりよい内容になるよう方針を定め、執筆を2週間程度で行います。</p> <p>第3回 個人レポートの執筆①夏季休業期間の下調べ報告 夏季休業期間に個人レポートの下調べをしておきます。その結果を報告し、意見を聴きます。そしてテーマ設定や事例研究の企画など、具体化を図ります。</p> <p>第4回 テーマについて「調べる」⑩結果レポート発表会 全員またはグループでとくんだフィールドワークのまとめとなる発表会を行います。</p> <p>第5回 より応用的な文献から学ぶ①縮減社会の見取り図 テーマについて、個人レポートの執筆にも資するよう、前期よりは専門的な内容の文献から学びます。</p> <p>第6回 より応用的な文献から学ぶ②縮減社会の問題</p> <p>第7回 より応用的な文献から学ぶ③縮減社会の構造</p> <p>第8回 個人レポートの執筆②後期中間報告 下調べをふまえてとりくみ始めた個人レポートについて、後期の中間地点での進行状況を報告します。以後、執筆を本格的に進めます。</p> <p>第9回 より応用的な文献から学ぶ④「住まい方」から考える縮減社会</p> <p>第10回 より応用的な文献から学ぶ⑤地域独自の「住まい方」を探る</p> <p>第11回 より応用的な文献から学ぶ⑥ゲストに経験をうかがう</p> <p>第12回 個人レポートの執筆③執筆内容の検討その1 冬期休業期間前後で執筆内容の検討を2回に分けて行います。グループに分かれて助言し合います。</p> <p>第13回 個人レポートの執筆④執筆内容の検討その2 前回に引き続き執筆内容の検討を行います。その後、個人レポートの原稿を提出します。</p> <p>第14回 個人レポートの執筆⑤個人レポート発表会準備 発表会に向けた打ち合わせの後、個人レポート集作のため、印刷作業を行います。</p> <p>第15回 個人レポートの執筆⑥個人レポート発表会 まとめとして、発表会を開催します。年間の学習の成果を振り返ります。</p>
教材・教科書	教材は適宜、指示・配布します。教科書はみなさんの関心を聞いた上で選定します。
参考図書	さしあたり、以下などを学習の指針としてください(著者名五十音順・税別)。 ・今西一男(2008)、『住民による「まちづくり」の作法』、公人の友社、1,000円 ・大月敏雄(2017)、『町を住みこなす』、岩波書店、860円 ・田村秀(2018)、『地方都市の持続可能性』、筑摩書房、860円 ・西山敏樹他(2015)、『実地調査入門』、慶應義塾大学出版会、1,600円
参考URL	社会調査論研究室ホームページの「講義ログ」にゼミ情報を掲載します。 http://www.ipc.fukushima-u.ac.jp/~a007/index.html
授業以外の学習	毎回のゼミに臨むにあたり、予習・復習を心がけるとともに、「まちづくり」に関する社会的動向に常に関心を払うようにしてください。また、身近な地域社会での「まちづくり」のとりくみに参加してみることもお勧めします。一連の過程では各自またはグループによって課題にとりくむことになります。主体的・積極的に参加するようにしてください。特にグループワーキングでは共同性の発揮を期待します。
成績評価の方法	単位認定基準に書いた事項を重視します。あらゆる場面に主体的・積極的に参加することが評価のポイントとなります。具体的には「読む」「書く」「聞く」「話す」そして「調べる」様子をよく見るようにします。もちろん、各種課題の内容を評価します。ただし、こうした評価の方法にしばられるのではなく、参加することが楽しみになるゼミに全員でしていくことが最も大切だと思います。
成績評価の基準	おおよそ以下の基準によって評価することを考えています。 S: 単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた(90～100点) A: 単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた(80～89点) B: 単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた(70～79点) C: 単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた(60～69点) F: 単位認定基準の学習成果をあげられなかった(～59点)
オフィスアワー	特にオフィスアワーは定めません。質問等がある時には随時受け付けるようにします(事前に直接またはメール等により日程調整を心がけるようにしてください)。
授業改善・工夫	演習科目ではレポーターとしての役割だけでなく、ディスカッションの運営を担う司会としての役割も身につけるよう促すなど、学生の主体性を発揮するよう工夫しています。個人レポートについてはレポート集として、手元に残るようにしたいと思います。アウトプットを大切に、意欲を持って望めるようにします。
留意点・注意事項	「まち」を観察する機会も多くあるので、デジタルカメラを用意してください。また、データ提出や交換の場面もあるので、自宅でのパソコン環境、特にインターネット環境は必ず整備してください。
教員の実務経験の有無	福島大学で20年、それ以前に都市計画コンサルタント会社で3年、「まちづくり」の現場に携わってきました。その経験を活かした話題提供や演習運営にも心がけています。

